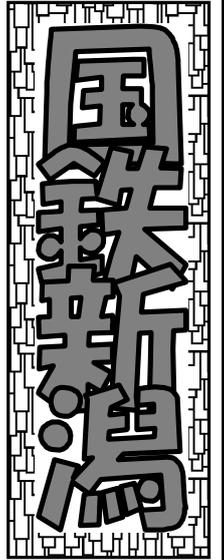


風速計の増設 輸送の確保 安全を最優先

北陸信越運輸局



NO. 570
発行
2006・5月1日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
守橋久仁雄
編集責任者
教宣部

など多くの方々の出席で行われました。

国交省・本省へ伝える

要請項目---- 『いなほ事故』の原因究明と災害防止策について

回答 『現在調査中。国交省は安心して利用できるようにつとめる。管内全事務所に風速計設置状況・強風時に対する指導・安全点検の実施。3月6日に利用者や气象台からの指導。風速計の増設・特殊信号機の設置・早目規制・運転規制=最大限の安全確保に努めた。』

庄内空港便に対抗しての羽越線の高速化について安全が危惧されるが~

回答 『現行を有効活用。効率的な活用を。利便性=地域の活性化に。』

只見線・大系線で長期間の列車運休=理由は『なだれ』が原因。信越線・上越線の除雪対策についてJRへ指導を。同時に支援策を講ずること。

回答 『(なだれ)についてJRの過去の状況から地域と連携しながら対策を進める。記録的な豪雪、安全総点検の実施。輸送の確保、安全を最優先に考え運行してきた。只見線は4月21日に大系線は3月8日に運転再開。保安度の向上に努める。』

越後線のレール継ぎ目板締結ボルトの不良・折損があった。巡回検査周期見直しを含め、JRへの指導を。

回答 『JR自らの責任の下で管理している。保安監査による指導をしていく。安全を最優先させる管理体制に。輸送の安全確保を図るため法律化・改正。JRへ申し伝える。』

平成18年3月3日、鉄道局発表の緊急総点検の結果は?

回答 『風速計=31箇所 特殊信号の設置=3箇所 气象台のアドバイスを受ける。』

国鉄闘争ついて、政府の責任において一日も早い不採用問題解決に当たっていただきたいこと。具体的解決交渉の場を設置できるよう国交省へ働きかけていただきたいことを訴えました。運輸局は『国交省・本省へ伝えると回答しました』

北信越運輸局への要請行動
四月二〇日、新潟県など関係機関への要請行動が、『地域経済の振興とくらし・福祉教育の充実をめざす新潟県実行委員会』で行なわれました。新潟県の各関係への要請が午前中に、北陸信越運輸局への要請行動が、一三時三〇分から、守橋委員長、県労連山崎議長・建交労杉崎委員長



国交省前空交通局長 菅野道典氏

要請項目は 国鉄闘争について早期解決に向けた働きかけ 平行在来線存続の問題 安全問題(福知山線や羽越線の脱線事故)などの要請を行ないました。
県は 『国はすべて行なった。現時点では裁判を見守りたい』と回答しました。新潟県として国交省への働きかけはできないのかと訴えても、同じ回答に終始し進展しませんでした。は『北陸・信越線の平行

在来協議会、富山・石川は平成一五年、一六年に発足。新潟は平成一三年に発足している。現行の水準並みでは厳しい。平行在来線の状況を地元や自治体などと協議していく。他県とも連携していく。利用者アンケートや資産についての調査は完了したが準備中』と回答しました。については『JRの安全対策について要請したい。豪雪対策』JRの運行確保は、JRの責任の下で運行して欲しい』と回答しました。

いなほ事故への回線の回復



全国キャラバン

6/8に要請行動を訴える

平行在来線は残すことが前提

四月二〇日の要請行動で、六月八日、新潟県内にて全国キャラバン展開中に、新潟県と北陸信越運輸局に要請行動を行いたいことを、訴えました。

北陸信越運輸局での要請行動では参加者からいろいろな意見が出され運輸局側は、すべての意見に回答しました。新潟県については用意された回答以外は、話してくれませんでした。

大系線の長期運休について？

回答 安全上、重視して運休へ。

除雪と、なだれの危険のため。夏場に対策をできないか？

回答 対策が必要・地権者との協議があるので難しい。指導していく。

豪雪地域の輸送確保に対する対策をしていたのか？監督官庁としてどう考えているのか？

回答 今冬の豪雪・脱線の発生などがあつたが、JRの現場では努力していた。不満はあるが頑張っていたのでは。バス代行で輸送を確保する。



大系線一カ所だけ危険箇所。実態調査をして欲しい。現地調査から防

止策を。列車運行の確保。JR・新潟県・運輸局で検討できないか？

回答 県・JRとこの問題を取り上げて話し合う。引き続き指導

第三セクターについて、平行在来線は具体的にどうか？

回答 県ごとに協議している。運行は他県に及び、運行は確保していくが、各県で運営していく。いろんなことが想定されるが運輸局として指導。平行在来線は県が責任を持つことで、新幹線の認可を許可した。



関東貨物協

湖上舟遊

第三セクターへ県に対して指導を存続するように運営を。黒字にならなくても運輸局として対策を具体的に進める。切り離していく恐れがある。

回答 幹線開通に伴い、ローカル線がより良いダイヤ設定になる。各県で残すために議論している。そのため運輸局が指導。本社へ伝える。経営は厳しい実態となる。九六年一二月の政府方針「国では何もしていない。矛盾を感じる。

もっと、三セクに対して検討をして欲しい。五県をまたがる線だから回答 平行在来線は残すことが前提。各県の実況を調査して検討していく。利用促進・経営についてより良い輸送を、その段階から議論していく。かわっていく。上申する。

最後に守橋委員長から、全国キャラバン（新潟は六月七日～九日）展開中の、六月八日に要請行動を実施したい、そのことを新潟県や北陸信越運輸局に訴えました。

五月二〇日（火）

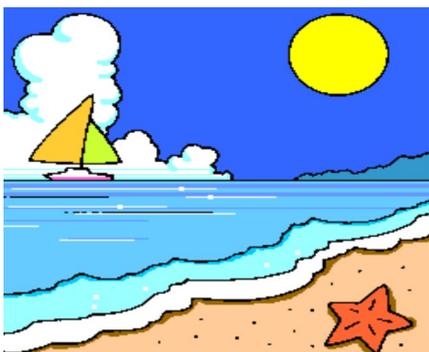
交流会

一三時三〇分

参加費 二〇〇〇円

場所

千葉県木更津市
木更津海岸中ノ島



参加申し込みは五月二〇日

まで「千葉貨物協議会

斉藤

Fax 03・3894・4030